

# 浜松市博物館ボランティア

代表者	大石 守一
所在地	〒432-8018 静岡県浜松市中区蛸塚四丁目22番1号
設立年月日	1993年04月01日
URL	hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp/

## 【設立主旨】

浜松市博物館は、さまざまな自主学習会、市民学芸員、ボランティアを組織したり募集したりして、市民の学習機会を保障するとともに、博物館の諸事業への市民参加（市民協働）、支援を求めます。

## 【沿革】

浜松市博物館は、1958年に開館した浜松市立郷土博物館を前身とする、市立の歴史系博物館です。国指定史跡であり、東海有数の貝塚でもある蛸塚遺跡を保存公開する蛸塚公園に位置しています。展示活動だけでなく、早くから体験事業や学校移動博物館など教育普及活動にも力をいれてきました。

1992年には、入野古墳の学習会を組織し、1年余にわたって浜松市指定文化財である中期古墳、入野古墳の学習をつづけました。この事業では、参加された市民のみなさんと協働で、市内に残された貴重な文化遺産の意義を検討し、現存する各地の古墳の見学をしたり入野古墳の墳丘測量を手がけたりしました。さらに測量の成果を分析し墳丘の規模を確定するという目的を持って、墳裾の一部発掘調査を実施しました。この公開発掘では、古墳の直径を確定するとともに葺石の存在を初めて確認するなど、大きな成果をあげました。この学習会は翌1993年5月に修了し、公開講演会を最後に解散しました。参加者は100名にのぼりました。

重ねて、1993年度には、新たに「学習会 蛸塚の時代」を組織し、屋外博物館でもある蛸塚遺跡を中心に、縄文時代の集落跡、また環境についての学習を継続していきました。

こうした中で、さらに地域史学習を深めたい有志や入野古墳の学習会の修了生が中心となって、自主学習会「しじみの会」が結成されました。しじみの会は、結成以来、浜松市内の古墳群の墳丘測量、土器づくりや古代食の再現など、さまざまな課題を設定して、精力的に学習をつづけています。

## 【活動内容】

しじみの会の諸活動のひとつとして、発足以来継続している研究活動に「カラムシ織り」の復原があります。その目標としたところは、「縄文時代の衣・食・住」の再現、追体験です。浜松市内の遺跡からは当時の衣服の痕跡は検出されていませんが、全国の出土例から類推するところから始まりました。



図1 しじみの会中核メンバーと完成した縄文服

衣服の材料には、検出例が多く、また現市内でも普通に見られるカラムシ（苧麻）を選定しました。民俗例を参照し、編み台を製作、経糸約一センチメートル幅で繊維を編むことにしました。カラムシは、浜松市周辺の土地で刈取りの許可をとり、しじみの会のメンバーと博物館職員で出かけました。皮剥ぎから製糸を経て最初の衣服が完成するまで、ほぼ1年を要しました。

翌年からも、カラムシ刈りから作業を繰り返しました。カラムシを採取する場所は年毎に変更しました。場所によって、カラムシにも糸に適したものとそうでないものがあることがわかってきました。表皮から繊維を取り出す工程でも、表皮をどの程度残すかによって、できあがった繊維の風合いや固さが全く異なるものになりました。その後も、同様の工程で、既に10点以上の復原衣服を手作りしてきました。糸の撚りや緯糸の量で、ずいぶん風合いの違う衣服が、毎年できあがっていきました。原始衣服に装飾があったことも想定し、草木など

自然素材を利用した糸染めや、刺繍なども試してみました。各地の民俗例や博物館等での同様事業にも、しじみの会が独自に取材をしています。



図2 博物館前庭を利用した夏休み夕方イベント

博物館では、衣服の完成するたび、小展示を開催し、広く紹介につとめてきました。毎年夏休みの体験館では、しじみの会の参画を得て、来館者に皮剥ぎや編み込みの作業を体験してもらっています。



図3 NPO法人、区役所と共催した綿織り体験イベント

こうした事業を通じて、しじみに興味を持たれる市民もふえ、メンバーも増えました。

しじみの会は、当館の自主学習組織の中でもっとも古く、ボランティア組織の中心をなしています。土器づくりや縄文食の再現、また昭和の遊びなど、得られた知識の次世代への継承を目的として、博物館の体験事業でも指導者として活躍しています。

ほかに、所蔵する古文書の解読会が4団体組織されています。今年度は解読の成果を4団体共同で小展示を行いました。市民学芸員の制度や、また自由選択によるボランティアの参加もすすんでいます。地元の



図4 遺跡公園を利用した「しじみの森」コンサート



図5 地域との共催による復原住居でのイベント

自治会や子ども会と協力して開催したイベントやNPO法人と共催する体験学習、企業と共催する体験イベントなど、さまざまな協働事業を展開しています。

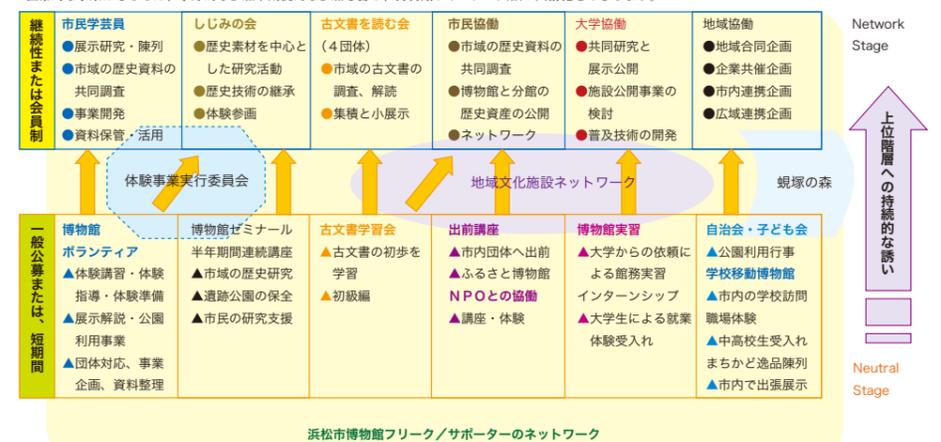
## 【活動上の課題と今後の展望】

さまざまなボランティアが活躍する浜松市博物館では、今年度から「体験事業実行委員会」を立ち上げて、各ボランティア団体の横のつながりと、博物館の事業計画や地域事業との調整をはかることにしました。興味や活動内容の異なる諸団体を無理に統一せず、各団体の自主性を尊重しながら連絡をとりあい、年間の事業計画の中で相互協力をしながら活躍の場を提供するのがねらいです。

当館の年間事業参加者（観覧者を除く）は60000人強です。また、年間のボランティア参加者は1000人を見込んでいます。郷土史に興味を持ち、活躍できる場を期待するボランティアのみならず自身に、本人もいかに楽しみながら参加していただけるか、これからも実践を重ねてまいります。

### 浜松市博物館ボランティア1000人構想

諸団体連携を階層化 (Neutral Stage と Network Stage) し、新規人材を随時募集します。既存の博物館支援団体や諸機関との連携を強化します。恒常的な事業はもちろん、季節的な参加や断続的な参加も含め、博物館サポーター人数の四倍化をめざします。



上位階層への持続的な誘い  
Neutral Stage